

古文 読解問題 「宇治拾遺物語」 絵仏師良秀」①

これも今は昔、絵仏師良秀とアイふありけり。家の隣より火出で来て、風おしおほひてせめければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。^①人の書かする仏もおはしけり。また衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、向かひのつらに立てり。

見れば、すでにわが家に移りて、煙、炎くゆりけるまで、おほかた向かひのつらに立ちて眺めければ、「あさましきこと。」とて、イ人ども来とぶらひけれど、騒がず。「いかに。」と人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、②うちうなづきて、時々笑ひけり。「あはれ、しつるせうとくかな。年ごろはわろくかきけるものかな」と言ふ時に、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。あさましきことかな。物のつきたまへるか。」と言ひければ、「なんでふ物のつくべきぞ。年ごろ不動尊の火炎を悪しくかきけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそせうとくよ。^③この道を立てて世にあらんには、仏だによくかきたてまつらば、百千の家も出で来なん。わたうたちこそ、させる能もおはせねば、ウ物をもをしみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。

その後や、良秀がよぢり不動とて、今に人々愛で合へり。

問一、次の文は「宇治拾遺物語」について説明したものである。空欄に入る言葉を答えなさい。

「宇治拾遺物語」は（ア）時代初期に書かれた（イ）文学（集）である。作者は不詳で、『宇治大納言物語』に入らなかった（イ）がまとめられたものだとされている。後世にも影響を与え、（ウ）が書いた「鼻」は「鼻長き僧の事」から着想を得たとされている。

問二、傍線部ア～ウを現代仮名遣いに直しなさい。（ただし、漢字は平仮名にして表記すること）

問三、傍線部①「人」が指しているものとして適切なものを次の中から選びなさい。

ア. 絵仏師良秀 イ. 絵仏師良秀の妻子 ウ. 絵仏師良秀の依頼人 エ. 火事を見に来た野次馬

問四、傍線部②「うちうなづきて、時々笑ひけり」の理由として最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア. 家に残されている家族の様子を見て、家族の無事を仏に願うことしかできないと思ったから。
- イ. 家が燃えている様子を見て、今まで上手く描くことのできなかつた炎を会得したと思ったから。
- ウ. 家が燃やされることによって、うまく描けなかつた不動尊の絵を見なくてすむと思ったから。
- エ. 家が燃え広がっているのを見て、家や財産を失う絶望感から、笑うしかなかったから。

問五、傍線部③「この道を立てて世にあらんには、仏だによくかきたてまつらば、百千の家も出で来なん。」を現代語訳しなさい。

読解問題 「宇治拾遺物語」 絵仏師良秀」 ① 解答・解説

問一、 ア 鎌倉 イ 説話 ウ 芥川龍之介

…「絵仏師良秀」も芥川龍之介の「地獄変」のモデルになったと言われている。

問二、 ア いうありけり

…文の先頭・助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に変換する。

イ ひとつもきとぶらいけれど

…「来」は連用形なので「き」と読む。文の先頭・助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に変換する。

ウ ものをもしみたまえ

…助詞以外の「を」は「お」に置き換える。文の先頭・助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に変換する。

問三、 ウ

…「人」のしたの「の」は文脈から「主格」と判断することができる。「する」は使役の助動詞で、「人」が書かせたことがわかるので、絵仏師良秀に仏を描くよう依頼した人物だと判断することができる。

問四、 イ

…「なんでふ物のつくべきぞ。年ごろ不動尊の火炎を悪しくかきけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそせうとくよ。」というセリフの部分から判断する。

問五、

この道を職業として世の中を生きてゆくには、仏様だけでもうまくお描き申しあげれば、百や千の家なとすぐできるだろう。